

令和 2 年 7 月 15 日現在

機関番号：27103

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02412

研究課題名(和文)国語教科書の日本近世作品教材の研究 解釈受容と教育の展開の分析

研究課題名(英文)A study of teaching materials for modern textbooks in Japanese language : the analysis of textbook adoption and its educational value

研究代表者

大久保 順子 (Ohkubo, Junko)

福岡女子大学・国際文理学部・教授

研究者番号：30259791

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本の明治期から戦後にかけての中等教育の国語科教科書や国語教育関連文献の調査をもとに、作品例として主に上田秋成、近松門左衛門、近世俳諧等による古典教材の、本文と指導書及びその指導内容について分析を行い、近世文学作品の教科書採用の実態と教材のもつ特質について考究した。それらの調査と検討を踏まえ、近現代期の国語科教育における近世文学作品の役割、現在の国語科教育における近世文学を含む古典文学教材の意義と展望、課題について考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近代以降の国語教育史の中で「古典の定番教材」は一見固定化しつつあるように見えるが、近現代から現在に至るまで、質的には著しく変化を遂げている。何を「古文」の教材とし、それをいかに教えるか、という問題は、所謂実務的国語力の要請だけではない、言語文化の「知」の教育そのものの意義の問い直しとなる。近現代の「古典文学観」に基づく日本近世文学作品の「教材化」の動向の研究のねらいは、主体的にテキストに向かう学習者と指導者にとっての教材の意義、さらには将来の国語教育における「古典」や「文学作品」教材の有効性を考えることにある。

研究成果の概要(英文)：This study, based on the investigation of Japanese pre-modern literature instructional materials from the Meiji era to the postwar, such as works of Akinari Ueda, Monzaemon Chikamatsu, and pre-modern-era haiku as well, aims to research the status of the adoption process of the pre-modern literary works, and analyze the body of the text and its pedagogical contents and properties of the middle school textbook.

This study focuses on the prospects and future task and significance of classic instructional materials in contemporary education of Japanese language culture.

研究分野：日本文学

キーワード：国語科 日本古典 教科書 近世文学 近松 秋成 俳諧 芭蕉

## 1. 研究開始当初の背景

日本人の国際的文化認識と「ことばで思考し、行動し、生活する力」及びコミュニケーションの向上のため、21世紀の現代日本の学校教育における国語科(現代文と古典)の指導、特に古典の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(平成20・21年告示の学習指導要領)の指導は、平成29・30年度の新学習指導要領の高等学校の「言語文化」「古典探究」等の科目でも重視されている。しかし今日の学習者にとって、自国語の古典が一種の外国語のように日常生活と隔絶した難解な異文化と受け取られる一方、社会のグローバル化の名のもとで外国語習得と比べて国語学習が軽視される矛盾した風潮がなくもなく、国語力の低下は歴史文化の誤認や知と文化の衰退を招きかねない。「国語」の言語文化を社会全体が支えるため、日本の古典作品の今日的な役割や読者への影響力と、古典文学教材の成り立ちや在り方を見直すことは、喫緊の重要な課題であると考えた。

申請者は2015年度までに、井原西鶴や近世説話等の日本近世文学作品の解釈論考と併せて、「戦前の国語教科書と西鶴浮世草子『蚤の籠ぬけ』教材と作品受容」(『日本文学』63-1,2014)等の西鶴作品の国語教科書教材化と指導観の考察を行ってきた。先行する西鶴教材の検証から提起された問題とその教材が定番となりうる要因とその影響や意義、教材利用や指導の実態、作品教材の史の変遷等について、本研究ではさらに日本近世作品の他の作品教材例にも調査対象を拡げ、検討を行うこととした。

## 2. 研究の目的

(1) 近現代の国語教科書における日本近世文学作品の採用の実態を探ること。

明治期～平成20年代の中等教育の国語教科書を対象とし、当時の教育法規と教授要目改正から現在の教育指導要領改訂に至るまでの影響関係をみる。本学及び他大学図書館、国立国会図書館、諸研究機関等所蔵の国語教科書資料を参照し、教科書教材採用作品についてのデータを整理し、国語教育における古典教材のニーズとその動向を探る。

(2) 国語教材の採用実態と、関連する出版物や作品研究と普及の動向から、当時における当該作品教材の意義や、近現代における「作品観」の問題点を探ること。

調査をもとに、近世文学に関する近代以降の古典教材の指導参考書や研究論考にみる指導事例、作品解釈の歴史的な変遷などを参照し、現在の古典学習の観点から見た教材の問題点や課題について考察する。

(3) 教材の作品の「作品観」や「指導観」の変遷と、社会や文化の状況の連関を通して、「古典」作品教材の歴史的意義を考察し、さらには今日的意義を探ること。

作品解釈研究史と国語教育の教材史の観点から、近世から近現代への作品観の変遷を具体的に辿り、作品教材のもつ働きや意義を考える。

## 3. 研究の方法

(1) 本学及び他大学図書館、諸機関所蔵の国語教科書資料の参照と採用作品のデータ整理

2016～2019年度を通じ、戦前の中等学校(旧制中学、高等女学校、実業学校等)用及び戦後の高等学校用の国語教科書の現物又は電子データ(本研究が架蔵本と本学旧学部(文学部)国文学研究室旧蔵図書その他、福岡教育大学附属図書館、国立国会図書館等)の閲覧により近世文学作品教材採用実態を調査し、作者名と作品名及び採用部分に関するデータを収集した。

(2) 特に採用の顕著な近世文学作品教材例について、個別に採用動向と教材化の様相を検討した考察を行い、論考を各年度ごとに発表し刊行した。

具体的には、戦前戦後を通じて国語教科書に比較的多く採用される西鶴以外の作家では上田秋成と近松門左衛門に着目し、殊に秋成の『藤簾冊子』『月の前』と近松の「丹波与作」の教科書教材化の実態と研究史的な動向、「国語科」の古文教材としての指導観について考察していった。次に、同様に採用例の多い古文教材「近世俳諧」を検討し、作品鑑賞の基盤として国語教科書で取り扱われる「和歌と俳諧」の概念についての問題提起を行った。

各年度報告の論考において、明治期から現代までの近世文学研究史上の作家観や「俳諧」等の様式観が教材化と指導観の根底に与える影響の問題点が継続的に検討され、古文(古典)教材としての近世文学を指導者と学習者がいかに捉え、何を学ぶかという本質的な問題に至った。そこで最終年度の研究報告では、明治以降の国語教科書の教授要目の改訂の背景と「古文」及び近世文学教材の位置付けの変化を一覧し、前年度までの諸作品教材の特質の検討を総括的に意味づけることとした。

## 4. 研究成果

(1) 近世文学作品の教材化の実態を探るため、各年度とも年数回程度の国語教科書資料閲覧調査を行い、その刊行状況と書誌及び収録作品教材作品のデータを集め、調査をもとに考察した単著研究論文4編を査読誌にて発表・刊行した。

「国語教材としての『藤簾冊子』『月の前』 近世文学作品教材化の動向」(『文藝と思想』第81号、2017)では、明治30年代以降の上田秋成作品の研究動向、当時の教科書の採用状況の調査データにおける整理、教科書テキストにおける原文の改変の問題、指導参考書における解説内容の実態を探った上で、「月の前」の文学性の評価の点で殊に後代への影響の大きさが窺

われる垣内松三の解説の文学教育的な指導観に着目し、国語教材としての位置づけや意義を考察した。

「国語教材としての「丹波与作」 近代以降の近松作品テキストの影響と教材観」(『文藝と思想』第 82 号、2018)では、近松浄瑠璃作品の教材採用状況の調査データ報告を行い、戦後と戦前では採用作品数の増加と減少の傾向の著しい変化を指摘した。その中の「丹波与作」は、戦前戦後を通じて比較的採用例が多い作品である。道行文の表現や、母子物としての展開の内容と人物の心理等、現代まで一貫した「文学教材」としての指導観をもつ作品であることを考察し、作品世界の倫理観など今日の教材化が困難な要因も指摘した。

「国語教材としての「近世俳諧」 文学史的指導上の問題点と「俳言」」(『文藝と思想』第 83 号、2019)では、明治期から近現代までの国語教科書の「定番」の一つである「近世俳諧」、殊に発句の教材の平成期の教科書採用状況をデータから探り、近代以降現在に至る古文教材で一般的な蕉風俳諧的「俳諧」観や「俳句」観の指導の傾向と、その問題点を指摘した。さらに日本文学史的な見地から、古典的な和歌観と「俳言」による連句「俳諧」観の指導の可能性と意義について考察した。

「近世文学作品教材の意義の変化 近現代における国語科教育の古典教材観の背景と課題」(『文藝と思想』第 84 号、2020)では、明治 31 年の国語科教科細目から窺われる「近世文」の指導観、大正期の『国語教育』における「古文」及び「近世文」教材の指導観、昭和戦後から平成以降の現代の指導観まで、近世文学作品教材の国語教科書採用状況の諸事情の背景を通観し、検討した。前稿及び本研究の論考 ～ で追究してきた各作品教材の特質が、国語科における「近世作品教材の役割」の変質との関連から捉えられることから、変質する教材観が今後の国語科教育の古文教材指導全体の課題となりうる可能性を示唆し、総括的報告とした。

(2)本研究の「近世作品が教材となりうる特質と、その文化的影響力」の研究視点に基づき、その作品観と教材観の進展を目指して、近世文学作品の教材化に資する本文テキストの作成、論考の刊行や図書の出版(単著及び共著)、口頭発表報告や講演等を行った。

単著の雑誌論文「家中に隠れなき蛇嫌ひ」考 『武家義理物語』と連想的手法」(2016)は、近世文学テキストにおける先行古典の影響とその利用についての論考である。井原西鶴『武家義理物語』巻三の五の一話の内の地名・人名等の語句や比喩の配置の分析から、舞台近江の依藤太伝説と深草元政の事蹟の連想による話構成の方法意識、「隠遁者」の人物造型の特質について考究した。

共著の『佐賀大学附属図書館小城鍋島文庫蔵 十帖源氏 立圃自筆書入本 翻刻と解説』(2018)、『仮名草子集成』第 60 巻(2018)、『紀行と実録(柳川文化資料集成 第六集)』(2019)等はそれぞれ、近世文学作品文献の詳細な資料調査に基づく、多くは未翻刻であった本文テキスト化の成果である。本研究で得た近世及び古典文学の作品への視座や見解は、共著『小城鍋島文庫蔵書解題集(試行版)』等の書誌解題作成、『浮世草子大事典』(2017)の項目調査と執筆、『気楽に江戸奇談 RE:STORY 井原西鶴』(2018)における翻案と一般読者向け解説コラム執筆、「書評 西鶴の「読み」の可能性と今日的意義 平林香織著『誘惑する西鶴 浮世草子をどう読むか』」(2016)、「目加田さくを先生関係資料紹介」(2019)等に、それぞれ有効に活かされることとなった。

関連する近世文学及び古典作品の研究報告や招待講演として、研究代表者単独の「報告 : 古典に近づき、楽しむ試み 芭蕉と西鶴のことば」(2017)、「小城鍋島文庫蔵『膽草』について」(2018)、「山田興孝の実録と筑後」(2019)、「宮永と八女の妖異物語」(2019)を実施している。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 大久保順子	4. 巻 84
2. 論文標題 近世文学作品教材の意義の変化 近現代における国語科教育の古典教材観の背景と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 福岡女子大学国際文理学部 『文藝と思想』	6. 最初と最後の頁 21-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="http://id.nii.ac.jp/1500/00003100/">http://id.nii.ac.jp/1500/00003100/</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 中尾友香梨・白石良夫・大久保順子・土屋育子・沼尻利通・中尾健一郎・村上義明	4. 巻 8
2. 論文標題 小城鍋島文庫蔵書解題稿 (四)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 佐賀大学全学教育機構紀要	6. 最初と最後の頁 65-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 中尾友香梨・白石良夫・三ツ松誠・日高愛子・大久保順子・沼尻利通・中尾健一郎・村上義明・二宮愛理	4. 巻 14
2. 論文標題 小城鍋島文庫蔵 『和学知辺草』 翻刻稿 (上)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 佐賀大学地域学歴史文化研究センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 95-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 大久保順子	4. 巻 182
2. 論文標題 書評 西鶴の「読み」の可能性と今日的意義 平林香織著 『誘惑する西鶴 浮世草子をどう読むか』	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本文芸研究会 『文藝研究』	6. 最初と最後の頁 46-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大久保順子	4. 巻 83
2. 論文標題 国語教材としての「近世俳諧」 文学史的指導上の問題点と「俳言」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 福岡女子大学国際文理学部『文藝と思想』	6. 最初と最後の頁 19-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="http://id.nii.ac.jp/1500/00003130/">http://id.nii.ac.jp/1500/00003130/</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大久保順子	4. 巻 82
2. 論文標題 国語教材としての「丹波与作」 近代以降の近松作品テキストの影響と教材観	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福岡女子大学国際文理学部『文藝と思想』	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="http://id.nii.ac.jp/1500/00003110/">http://id.nii.ac.jp/1500/00003110/</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大久保順子	4. 巻 215
2. 論文標題 「家中に隠れなき蛇嫌ひ」考 『武家義理物語』と連想的手法	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 全国大学国語国文学会『文学・語学』	6. 最初と最後の頁 128-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大久保順子	4. 巻 81
2. 論文標題 国語教材としての『藤簍冊子』 「月の前」 近世文学作品教材化の動向	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 福岡女子大学国際文理学部『文藝と思想』	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="http://id.nii.ac.jp/1500/00003105/">http://id.nii.ac.jp/1500/00003105/</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大久保順子
2. 発表標題 宮永と八女の妖異物語
3. 学会等名 柳川市史歴史講座（招待講演）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大久保順子
2. 発表標題 小城鍋島文庫蔵『贍草』について
3. 学会等名 小城鍋島文庫研究会第7回研究発表会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大久保順子
2. 発表標題 山田興孝の実録と筑後
3. 学会等名 平成三十年度 第一回 柳川市史連絡会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大久保順子
2. 発表標題 報告 「古典に近づき、楽しむ試み 芭蕉と西鶴のことば」
3. 学会等名 熊本県立大学・福岡女子大学合同シンポジウム「文学の可能性 『古典の力』」（招待講演）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 柳沢昌紀・大久保順子・湯浅佳子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京堂出版	5. 総ページ数 328
3. 書名 『仮名草子集成』第60巻	

1. 著者名 小城鍋島文庫研究会編(中尾友香梨・白石良夫・日高愛子・亀井森・沼尻利通・大久保順子・村上義明・脇山真衣・田中圭子・土屋育子・中尾健一郎・三ツ松誠)(共著)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 小城鍋島文庫研究会	5. 総ページ数 60
3. 書名 小城鍋島文庫蔵書解題集(試行版) (平成27~29年度科研費 基盤研究(C)15K02251調査報告)	

1. 著者名 浮世草子大事典編集委員会編(共著)	4. 発行年 2017年
2. 出版社 笠間書院	5. 総ページ数 1010p
3. 書名 浮世草子大事典	

1. 著者名 西鶴研究会編(共著)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 笠間書院	5. 総ページ数 206
3. 書名 RE:STORY 井原西鶴	

1. 著者名 白石良夫・中尾友香梨編、小城鍋島文庫研究会校訂（共著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 笠間書院	5. 総ページ数 403
3. 書名 佐賀大学附属図書館小城鍋島文庫蔵『十帖源氏』立園自筆書入本【翻刻と解説】	

1. 著者名 柳川市史編集委員会（共著、編集、翻刻等）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 柳川市	5. 総ページ数 263
3. 書名 紀行と実録（柳川文化資料集成 第六集）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----